

たわわ



地域で生きる障害者を支える会通信

発行 2003年9月28日

37号

「地域で生きる障害者を支える会」会報

住所：横浜市港北区下田町6-31-8

活動ホーム「しもだ」内

TEL 045-562-3600

FAX 045-562-5991

安心して暮らせるホームを

———障害者の個性に合わせた準備を———

木犀の香りがいっせいにただよって、秋本番を告げています。

この通信も8月号のお休みをいただいているうちに すっかり季節も移り、いろいろなことがありました。

* * *

横浜の福祉 ことに障害者活動支援のシステムについては在宅障害者援護協会の存続も含め、その築き上げた機能を十分に生かし、継承していけるように繰り返し意見交換がおこなわれました。その結果、活動ホームや地域作業所、グループホームなど各団体の連絡会や障害当事者団体などの意見を入れ、横浜市在宅障害者援護協会は、横浜市社会福祉協議会との一体化の方向で、新しい明日へ向けてより良いシステム作りをかんがえていくことになりました。 まもなく横浜市、市社協、在援協の三者による検討会が再開されます。

* * *

さて、私たちの活動です。

第2館目のグループホーム建設に向けて、おおまかな設計が終わりました。これからは一人一人の状態に合わせた設備を整えるために、リハセンターとの連携で準備をしていきます。浴室、トイレ、それぞれの居室、移動のための設備、いつも看護の目が行き届くリビング、など入居する障害者にも、支援をする人たちにも負担のないように長い目で見た設備を考えたいと思って話し合いをすすめております。

一方ソフト面でも、第一館目を使って体験入居が可能な限り行われ、メンバーも職員もがんばっています。

親たちの安心のために入居させるのではなく、重い障害を持った人たちが将来にわたって安心して暮らせるように願っての自立です。メンバーがこれまでの生活をくずすことなく、できるだけスムーズに新しい生活に入れるように、またさらに豊かな明日に向けて、暖かい心のこもった支援が必要なのです。

皆で力をあわせ、慎重に取り組みたいですね。



「ユニバーサルデザイン」

横浜市総合リハビリテーションセンター

言語聴覚士 大澤富美子

最近よく聞く「ユニバーサルデザイン」について、インターネットで調べてみました。すると、写真入りの解りやすい説明ができました。その意味は「できるだけ多くの人が利用可能であるように製品、建物、空間をデザインすること」で、身体障害をもつアメリカの大学の先生、ロナルド・メイスさんが、20年ほど前に最初に言ったのだそうです。この考えによって、都市では歩きやすくするために電柱を地下に埋めたり、建物には自動ドアや多目的トイレをつけるようになってきており、右手でも左手でもつかえるハサミなどの道具もデザインされています。これと関係のあることばに「バリアフリーデザイン」がありますが、これは「障害の部位や程度によりもたらされるバリア（障壁）に対処するためのデザイン」で、ユニバーサルデザインの一部として含まれるもののようです。私たちのまわりでも、こうした考えに基づいて都市計画がされたり、公共施設が建設されるようになってきて、少しずつですが人にやさしい街づくり・ものづくりが広まっているように感じます。この変化が、たとえゆっくりであっても、確実に進んでいくと思うと、明るい気持ちになれます。

グループホームを訪れて

寺田 借子

私が「しもだ」のよつばのへやでボランティアをさせていただくようになって早や10年が過ぎました。

グループホームの次朗さん、勢津子さん、さっちゃん、博之君とはその頃からの友達です。みんな個性あふれる、一緒にいて私達を楽しくさせてくれる心やさしい人達です。

グループホームが出来て間もない頃、次朗さんから「遊びに来て！」とのお誘いがあり、娘と二人で伺いました。新しく出来たばかりのホームは、それはそれは快適で、ゆったりとしたリビング、一人ひとりのへやも明るくて、リビングでくつろいだり、自分の部屋でテレビゲームをしたりと皆さん本当に楽しそうでした。ご家族から独立してもこんなに充実した環境で、幸せそうで本当に良かったと思いました。

来年二つ目のグループホームが出来そうですが、今度入られる方も、きっとよい環境で温かい人達に囲まれて楽しく暮らしていただきたいと心より願っております。



グループホーム2館めメンバー紹介

富岡 章子さん

とびきりの笑顔に 今日もうっとり

視線を感じて にっこり

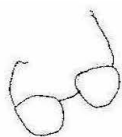
今、一番の幸せは、だっこでビデオ。

一緒に見て、歌って、踊って、大笑いして

夢中になっていると、私のアゴが左手がどんどんのびて.....

自慢の足が高く高く上がって、

はっとわれに返って周囲を見渡す私って..... かわいい？



めがねのこえ

よつばホームの2館目が出来ますが 私は グループホームに入るかどうか まだ、少し決心しきれない気がしています。

なぜだか 自分でも、よくわかりませんが・・・。

私はこれからずっと先の暮らし方について、自立して生活をしたいとは思っていますが、ふつうの人ように 親たちと一緒に住んで、介助の人をたのみながら 生活したい。また、だれか 友だちと2人で暮らせたらいいなとも おもいます。

でも私は 障害が重いので誰かに手伝ってもらったり 助けてもらうことが多く、そのための職員や ヘルパーさんがいるグループホームがいいのかなともおもいます。

だからこうして いろいろある夢の中からひとつの道を決めてしまうと「これでよいのかなー」と思うのです。 皆で 時間通りに食事をしたり、決められた規則正しい生活をしたいなとは 思うのですが、買物に行くのも 何日も前に 送迎を頼み、ボランティアを頼んでいくことになるでしょうし 「ちょっと 行ってこようか」ということでも おおげさなことになる。帰り道に絵を見に行ったり、 ぶらりとどこかへ出かけることはあまりできなくなるのではないのでしょうか。また、わたくしは言葉が不自由だし文が下手なので 充分に思うことが伝えられるかどうか 心配です。でも 私も「一度はグループホームで暮らしてみたい」と 思っていたし、 駅や街も 障害者が使うことで変わってきたし、グループホームも 自然のうちに暮らせるように、変わってくればいいなとも思います。私はできるだけ今の生活と同じようにしたいです。

そのうちに 障害の重い人も、いろいろな住み方が 自然にできるようになればいいなと思います。

大原友子

今月のよつばホーム

よつばホームで、非常勤職員としてお世話になっております、村山 悟美です。
こちらで働かせていただいて、もう1年ほど経ちましたが、9月末で退職する事になりました。

最初の頃は、ド素人の私が介護の仕事をやっていけるのか、とても不安でした。そんな時、いつも入居者の方々の笑顔で勇気づけられ、元気をもらっていた気がします。

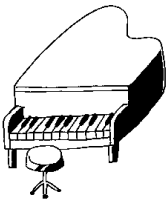
「ありがとう」と言われた時は“この仕事をやっていて本当に良かったなあ”と思いました。

よつばホームには、いつも優しい香りがあふれていて・・・

■ 福田 次郎さん（よつばのヒーロー）

耳鼻科の帰りに、マクドナルドでコーヒーデート（笑）

よく、女心をくすぐるお手紙を書いてくれました。



■ 藤田 博之さん（よつばのダンディな癒し系）

とにかくオシャレ！！

キレイな音楽を聴いている時の笑顔で私はいつも癒されていました。

■ 高島 勢津子さん（よつばのステキなお花博士）

プライベートな悩み事も聞いてもらっていました。

かなり甘えていたかも・・・

■ 花岡 佐千江さん（よつばの笑顔の女王）

土曜日のセブンイレブンデート！

お風呂タイムで“冰川きよしのズンドコ節”を一緒に歌ったり
しました。



・・・こんな居心地の良い家（グループホーム）が、また増えるという事で、今からワクワクしています。

これからも、何かお手伝い出来る事はないか？と考えながら、“スープの冷めない距離”で見守っていきたいと思っています。